

秋庭

原子力委員 悦子

スレベル」という。クリ うち、放射性廃棄物とし 伴って発生する廃棄物の 力発電所の解体や運転に 思い浮かべる人も多いの と、商店やデパートの その基準を一クリアラン ではないだろうか。原子 アランスレベルは年間 「クリアランス」といい、 て扱う必要のないことを クリアランスセール」を ンス」と聞く 「クリアラ 分の一以下である。わが あり、私たちが日常生活 で受ける自然放射線の百 サイクルできる資源とな 制法を改正してクリアラ 国では平成十七年に炉規 ち、実に九八%程度はリ を解体した時の廃材のう いになり、原子力発電所 通の産業廃棄物と同じ扱 によって、クリアランス ンス制度を設けた。これ 〇・〇一『シーベルトで レベル以下のものは、普 松田美夜子先生である。

る。原子力発電 べるが、建物や マルを思い浮か いうとプルサー のリサイクルと リサイクルも大 機器など設備の

ねばならないと考えられ からしっかりと取り組ま ついて、貴重な資源とし きに出る大量の廃棄物に 想されているが、このと たのが、前原子力委員の きな課題となっている。 て有効に使うためには今 二〇年頃から本格的な廃 L措置時代を迎えると予 さて、わが国では二〇 私が原子力委員に就任し レビで「原発解体~世界 増え、ちょうどNHKテ を重ねるごとに参加者も かげさまで、交流会は回 当させていただいた。お ぎ、第二回交流会から担 て、松田先生から引き継 た。そして、今年一月、 的な勉強会として始まっ 交流会」が松田先生の私 る。さらに廃止措置だけ 正が成立したところであ で放射線障害防止法の改 とになっており、今国会 ランス制度を導入するこ う施設についてもクリア とが求められている。ま クリアランス物のリサイ あり、これから発生する クル利用を進めていくこ た、放射性同位元素を扱

原子力発電のもう一つのリサイクル

とクリアランスに関する 機関、有識者などが自由 きっかけとなって関係各 を開催された。これが 英独の廃止措置の現場や に参集して、「廃止措置 省庁、電気事業者、研究 視察に行き、その報告会 昨年十一月、松田先生は クリアランス関連企業に なった。 炉においても行われつつ 焦点が当たっているが、 在商用原子力発電設備に 廃止措置は大学、研究機 リサイクル利用は、現 民間の所有する研究

こともあって、白熱した う番組がオンエアされた 議論も展開されるように の現場は警告する」とい に生じた廃棄物もあり、 でなく、原子炉の運転中 とにより、リサイクル利 これも除染などを行うこ つまり、原子力発電所は 用することは可能である。費者に届くという流れに

見が述べられたが、リサ いえる。 イクルを推進するには次 交流会では、様々な意

実は「資源の宝の山」と

の三点が重要と認識され る。これらは相互に関連 の国民の理解促進」であ み」「クリアランス制度へ 役割及び制度的な仕組 利活用等の仕組み構築 た。「クリアランス物の これを支える関係者の しながら機能しているこ 案されている。 の理解を進めることも提 どに設置して、一般市民 を官庁や各都道府県庁な ス物から作られたベンチ 東海発電所のクリアラン なってくる。その方策と て取り組むことが必要と して、日本原子力発電の

業者が安心して事業がで 加工事業者そして一般消 係省庁や事業者が連携し や理解が重要であり、関 自治体や地域住民の納得 なる。集荷、溶融、加工 →溶融処理事業者→製品 業者から集荷処理事業者 開放)になると、排出事 るが、将来的にフリーリ とが理解された。 きる環境にするためには、 リース(制約なしの市場 は排出者の限定利用であ 現在、クリアランス物 ということである。 とになっている。 の情報共有をしていくこ 開く鍵は、「国民の理解」 い」という意見もあった。 あり、「クリアランスと 民的に分かり難い制度で らクリアランス制度が国 促進であるが、残念なが 要なことは国民への理解 クル推進のため、最も重 三、四回開催し、関係者 いう用語が誤解を得やす どうやら「宝の山」を 交流会では今後も年間 いずれにしろ、リサイ